

『企業の生き残りをかけて 変革・行動を起こそう。』

「勝ち組企業」と「負け組企業」の特徴



高井法博会計事務所 所長
TACTグループ関連12社 代表

税理士 高井法博

二十一世紀最初の年であった昨年は、アメリカのITバブルが崩壊し、一気に世界的不況に突入した。更に、九月十一日には米国同時多発テロが発生した。このような国際環境下で、日本経済もGDPの二年連続マイナス成長、株価の一万円割れ・失業率五、五％となり、グローバル化に伴う価格破壊はあらゆる業種に波及し、まさにデフレスパイラルに突入したと言っても良いような状況の中で平成十四年が開けた。

今年も小泉内閣の下で、聖域なき構造改革を進めるといふ強い意識から企業、国民共に素晴らしい日本を作るための痛みを甘受すべき年と覚悟し、企業経営をしていかねばならない。まさに企業の存亡が、経営者の力量が問われる年となった。是非、皆さんが生き残り、『勝ち組企業』となっていただいたための方策をいくつか列挙してみたいと思う。

一、現在をありのままに捉え逃げない。

人間は試練に出会ったとき、うまくいかない理由を社会や政治、会社、上司、部下など他人のせいにする原因他人論の人がいる。当然にイノベーションができずに負け組になる。反面しっかりと現状を捉え分析し、うまく行かないのは自分のせいだと捉え自己批判を行う者がある。このように素直にとれば、自分

は不完全な人間であると知り謙虚になり学ぶ姿勢を持てば現状打破ができ勝ち組となる。誰も困難に出会うとつい逃げ出したい。しかし、人間は試練を乗り越えることによって一皮ずつむけ、実力をつけ大きくなっていく。

戦国の武将山中鹿之助が、「我に艱難辛苦をあたえたまえ。」と念じたが如く、現状を不況と捉えず成功のための大変革期と捉え、正しいことに信念を持って『誰にも負けない努力』を貫き通し、勝利を勝ち取っていた

きたい。

二、戦略、戦術を明確にする。

現状を正しく捉えたのであれば、今までの体験や勉強で得たもの、不足するものは更に調べ本物のコンサルタントや人脈からの助言も受けて『どうするべきかを明確にきめる』必要がある。そしてそれを定量的に(数字に置き換えて)シミュレーションをする必要がある。そして確信が持てれば全員に徹底し実践行動に移す。勝ち組企業は戦略戦術がはっきりしており皆に徹底がなされている。反面負け組企業はやることなすこと全てが思いつきで危機感もなく『仕方がない』で時を過ぎ、戦略と言う意識すらなく、よって勝つためのストーリーがない。

働く。元気もあり、挨拶や掃除も徹底しており声も大きい。反面負け組企業は、社員はバラバラで呑気で危機感がなくあらゆることを遅い。ルールが守られずルーズで、積み残し、先送り体質が蔓延しており、暗く汚く声も小さく挨拶もしない。それを見た上司も経営者も叱る時に叱らざり行き当たりばったりの経営になっており、経営者が一人で悩んでいるが問題を解決すべき手法もしかるべき相談相手もない。

四、今年こそ『本当に変わる』

経済のボーダレス化グローバル化は、製造業の空洞化を産み、高齢化社会の到来による労働人口の減少、医療費の高騰。IT情報革命の進展、国の財政構造改革、規制緩和などの問題は大きな産業構造の転換を余儀なくしようとしている。ここらを真正面に受け止め、天が我々に与えた変革へのチャンスと認識し、経営を立て直すためにまず社長自身が変わってほしい。そして、勉強し考えに考え『社長の器量』を高めてほしい。こころ、二年は企業家にとって正念場である。しかし、気概あふれる経営者にとっては、まさに千載一遇のチャンスだと思おう。結局は皆さん自身がきめることとなる。皆様の今年一年のご健闘を心よりお祈りいたします。